



CQM(超短期経済予測モデル)

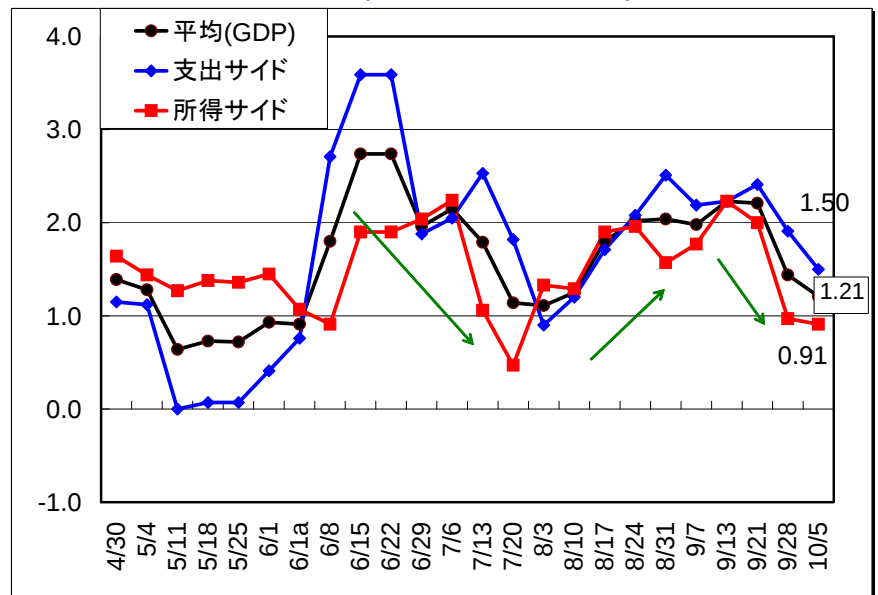
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2012年10月5日)

ポイント

- ▶7-9 月期の経済成長率を 2%程度に予測していたが、この 2 週間で支出・所得両サイドで急速に低下してきた(グラフ)。
- ▶今週の CQM は支出・所得両サイドからの平均実質 GDP 伸び率が 1.21%にまで減速してきたことを示している。
- ▶減速の主な理由として、投資の減速がある。今週の CQM は 7-9 月期の実質非住宅固定資本形成の伸び率を 5.7%から-0.8%にまで下方修正した。
- ▶低金利政策による投資刺激の限界であろう。企業家が望むのは、低金利よりも経済への不確実性の排除である。
- ▶経済が再び減速し始めた今、9 月の失業率が 7.8%になったとしても、大統領選挙を前にして、経済が Obama にとってますます逆風となっている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%、前期比年率換算)



＜第 1 回大統領候補ディベートで“Devastating Defeat”となったオバマ。7.8%の失業率に救われるか？＞

10 月 5 日の CQM 予測は 8 月の建設支出、自動車在庫、工場受注（製造業財出荷、製造業在庫）、9 月の農産物価格、雇用統計を更新した。今週の CQM は 7-9 月期の実質 GDP 伸び率を、支出サイドでは 1.50%から 1.21%へ、所得サイドでは 0.97%から 0.91%へとそれぞれ下方に修正した。両サイドからの平均実質 GDP 伸び率は、1.44%から 1.21%へと下方修正となった(グラフ)。

10 月 3 日に第一回目の大統領候補の討論会があった。過去 6 ヶ月にわたる Obama 陣営のネガティブキャンペーンが功を奏し、討論会直前までの Obama、Romney の支持率の差は 10%程度にまで広がり、Obama 有利の展開となっていた。しかし、実際に討論会でみた Romney はネガティブキャンペーンとは全く逆のイメージと人々に映った。ネガティブキャンペーンが両刀の剣となり、Romney への支持率が急速に回復をした。この討論会は Obama にとって単なる“Loss”ではなく、“Devastating Defeat”となった。結局、この討論会が Game Change となり共和党に勝算の希望がでてきた。

しかし、その翌日の 9 月の雇用統計発表において、雇用増がそこそこにもかかわらず、失業率が予想外に 7.8%にまで低下した。Obama にとってはラッキーとしかいいようがないが、このラッキーが続くとは思われない。グラフに見るように、7-9 月期の経済成長率が 9 月半ばから下降トレンドを形成し始めている。11 月 6 日の大統領選挙前の 10 月 25 日に 7-9 月期の経済成長率が発表されるが、それが 1%程度になる可能性は高い。到底、国民が受け入れられる経済成長率ではない。今週の米経済成長率の下方修正の主な理由は、8 月の製造業財出荷の大きな落ち込みによる投資の大幅な下方修正である。連銀の異常な低金利政策の限界をも示している。企業家が望んでいるのはもはや低金利ではなく、財政の崖、欧州の債務危機、グローバル経済のスローダウンなどによる経済への不確実性をなくすことである。投資が減速してきた今、米経済の持続的な成長が懸念される。7.8%の失業率も Obama にとっては、一時の癒しにしかならないだろう。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550